慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | H.L. Shapiro, Migration and Environment, 1939. |
| Sub Title | |
| Author | 山本, 登 |
| Publisher | 慶應義塾理財学会 |
| Publication year | 1939 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.33, No.7 (1939. 7) ,p.991(135)- 998(142) |
| JaLC DOI | 10.14991/001.19390701-0135 |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19390701-0135 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

C. N. Vakil and D. N. Maluste, Commercial Relations between India and Japan, 1937.

かくして著者はさらに日本の工業關係、組織、經營方法、販賣方法、需要に對する研究、海運事業、金融事業などについて、それぞれ比較評論し、結局それらの多くの點について日本の優越性を認め、かつ國家及び人民の協力的努力がこの結果を生じたものであることを指摘してゐる。

われわれは本書の説くところのすべてをそのまゝに承認することは出來ない。殊にその日本を論ずるに當つて使用した資料は甚だ不十分であることを指摘しなければならない。Crocker, Latourette, Osbon, Moulton, Cousins, Wright, Sansom, Porter, Utley その他邦人の英文著作等相當多く利用はしてゐるが、原資料については十分に研究してゐない。殊にわれわれにとつては印度側の記述の粗なることは甚だ遺憾である。勿論本書が元來著者の一人 Malste 氏のM・A稱號を得るための論文に、多少の訂正をなしたに過ぎないものであるから、十分の研究はなほ後の時期に期待さるべきであらう。それにも拘らず敢てここに紹介する所以は、著者が何らの僻見に捕はれず、比較的公平に敍述してゐるからである。殊さらに日本を批難もせず、淡々として敍述してゐる態度、並びにこの種の著作の中に近頃動もすればありがちの黨派的な議論のないことが嬉しかつたからである。（昭和十四年六月十七日稿）

## H. L. Shapiro, Migration and Environment. 1939.

山本　登

環境を異にする二領域間に人口の移動が行はれた場合、移住民は新領域にをける環境によつて、必然的に何等かの影響を蒙ると見なければならない。此の場合嚴密には、環境に就いて自然的、社會的、經濟的、精神的等々の區別が行はれるべきであると共に、移住民の受ける影響に關しても、身體上の變化のみならず社會的、經濟的の結果が考へられなければならない。

現代に於て、又時に或本國と其の植民地的領域との間に移住計畫が企てられる場合には、兩領域間の密接なる經濟的關聯の樹立を究極目標として、現實には新領域にをける移民群の經濟的生存權確立が直接問題となつて來る。而かも是れに對する基本的條件の一として、移民群が新環境の下に於て、果して肉體的に生命を維持發展出來るか否かは、極めて肝要な考察點である。

移住と環境との關係、換言すれば環境の變化が移住民に及ぼす影響は、かくて移住民の生活樣相の各部面に現はれるべきであるが、上述せし所より明らかなる如く、其の一部面として、環境の變化が移住民の體格上に及ぼす生物學的影響も、決して是れを輕視する事は許されない。蓋し移住地の新環境の下に於て、移住民の身體上により以上の發展が顯著に見出されゝば、少くともそれは新環境への生理的適應の可能性を示す證左となり、逆に身體發育

上の退歩が發見されるならば、適應の困難を示す事になるからである。然して此の生理的適應の能否如何が、それ以外の社會的、經濟的環境への順應性を決定する一の有力な根據たり得る事は論を俟たない。

本書は實に此の生物學的分野に對する極めて組織的な實證的研究を內容とし、第一に、新環境の下に移住民が本國民と比較して、如何なる體格上の變化を示すか、第二に、移住民第二世の體格が親と比較して更に如何に變化を續け、且つ本國民の標準を離れて行くかを詳細に分析する。其の際、「環境」は既述の細區分を包含した全般的な廣い意味に於て理解される。然して著者が材料とする所は布哇への日本移民である。

上述の比較研究を行ふ爲めに、出生地と居住地を基準として次の三箇のグループが構成される。即ち第一類は、日本に生れ日本に居住し、且つ地域的に遠方へ移動せず、日本人と結婚する純粹の本國民であり、著者は是れを 'sedentes'（本國在住民）と名付ける。第二類は布哇への移住民である。彼等の移住は一八八〇年代に既に相當行はれたが、現在居住者の大部分は一八九八年の米布合併以降、一九二四年の排日法設定迄の間に渡航した者と目される。殊に女性に就いては、一九一〇年代の寫眞結婚による流入が顯著な現象として記錄される。第三類が是等移住民の子女、即ち布哇に生れ布哇に育つた所謂第二世であり、從つて大體一九〇〇年以降の出生と解される。

斯くして是等三グループ間に、性別に體格上の實證的比較を行ふ事によつて、環境の變化が及ぼす影響が具體的に明らかにされる。研究は先づ移住民と sedentes の間に、次いで第二世と移住民並びに sedentes との間に行はれる。而かも比較の成果を正確ならしめる爲めに、sedentes に就いては移住民の血緣關係者が選出され、又三グループ間の比較に成る可く同世代を取上げる事によつて、時間的要因に基く差違を縮少せんとする。但し此の點に關して、第二世が概して青年期に在るに反して、移住民が老年期に在る事實は、避け難い障害を與へてゐる。

以上の制約的條件を附して、出來得る限り典型的なグループ形成に努めた結果、調査人員は總計二、五九四人を算し、次の如き內譯を示す。（一八六頁）

| | | 男性 | 女性 |
|---|---|---|---|
| 第二世 | 少年 | 645 | 320 |
| | 成年 | 530 | 286 |
| 移住民 sedentes | 少年 | 188 | 91 |
| | 成年 | 178 | 93 |
| | | 172 | 91 |
| | | 1,713 | 881 |
| | | 2,594 | |

此の中、移住民と第二世の合計は、大體布哇在住日本人の二・五%を占め、數量的には稍〻過少の感を免れない。然しそれは sedentes との關聯を嚴密に求めた餘儀ない結果として許容さるべきであらう。

斯くして前記三グループに就き、比較調査は總計九十種の多數の諸項目に及ぶ（詳細は九—一〇頁參照）。即ちその內容は(一)先づ體重、身長、座長、胴長、手足の長さ等より胸廓、顏面等に及ぶ二十八種目の測定數量の比較。(二)上記の測定數量相互間の比率（指數）に就いての比較、例へば肩巾對身長、腰巾對身長、肩巾對腰巾等合計二十一種目、(三)觀察による身體上の特徵の比較、例へば皮膚色、毛髮の性狀、眼の色等三十五種目等である。

而かも斯かる調査研究に際して、數名の調査者が參加する場合には一般に各調査者の測定法、觀察法の如何によ

り、結果に多少の差違が豫想される。斯の如き缺陷を除く爲めに、本調査に對しては唯一人 Frederick S. Hulse 博士が、一九三一年一月より翌年二月に亙り、布哇並びに日本に於て、全責任を以て自ら調査に當つた由である。特に sedentes に關しては、調査者は日本文部省、內務省、關係各縣知事、東大教授等の協力を仰いだ、斯の如き研究上に於ける緻密なる方法の採用は、其の成果を高く評價せしむるに足るものである。

上述の諸項目に關する統計的研究の結果は、本書の二〇六頁以下に約四〇〇頁に亙つて明細に表記せられるが、本文に於ては第三章に於て移住民と sedentes 間、第四章に於て第二世と移住民及び sedentes 間の比較が、先づ最初は全般的に、次いで男女兩性別に分つて說明せられる。

今その內容を委しく紹介する餘裕を有さないが、得られた結果を概括的に顧みるならば、次の如くである。第一に男性に就いて移住民は sedentes に比して、前記二十八種の測定中、增大するもの十五種、減少するもの六種、結局 16/28 即ち七二・四%の變化率を示し、又二十一種の指數に關しては、16/21 即ち七六・二%の變化を具現する。是に對して女性は幾分變化の程度が低く、夫々六・七九%(測定)、四五・〇%(指數)を示す。

第二に、第二世と移住民間に於ては、それ程の變化は見られず、男性に於いて五五・二%(測定)、四二・九%(指數)、女性四六・四%(測定)　四五・〇%(指數)である。然し此の事は第二世が移住民よりも sedentes に近い事を意味するものではない。蓋し第二世と sedentes 間の乘離は更に擴大され、男性七九・三%(測定)、九〇・五%(指數)女性六七・九%測定、八〇・〇%(指數)の結果が見られる。

以上の點より理解し得る事は、三グループ間の關係に於て移住民と第二世間が最も順比例的な變化を示す事であり、又各部門に於て男女兩性が大體類似した變化の方向を採つてゐる事である。更らに全般的に考察すれば、移住民が sedentes より、既に相當大なる變化率を示し、第二世は一層是れを强化する傾向を帶びる事によつて、如何に環境の及ぼす影響が大であるかを知り得るのである。而かも斯かる變化率の內容を分析すれば、多くの場合增大項目數が減少項目數を凌駕する。是れは取りも直さず身體上のより一層の發展を示す證據であつて、謂はゞ、日本よりの布哇移住民の體位向上を明示するに外ならない。殊に第二世は sedentes に比し、男女共身長に於て著しい增加を示すが、此の事實は、身體の他の諸部分に就いての比例的增大を充分に豫想せしむる。

次いで本書の考察は出生地方別の比較に移る。(第五章)。抑ゝ布哇移民は、日本の特定數箇所地方から行はれた事情よりして、其の出生地方別の考察は、より綿密な結果を生み出すに資すると思はれる。即ち、元來布哇移民を送り出した地方は山口、廣島、九州(主として福岡、熊本)と其他の諸地方(主として新潟、福島)に四分される。勿論各地方の sedentes 間には或程度の相違が見られる。然るに移住民相互間には地域的特異性は比較的縮少され、第二世間に於ては其の識別は一層困難となる。即ち第二世は布哇にあつて同一環環の影響を受けるが故であると解される。

尙地方別考察より得られる興味ある結果として、地方別 sedentes と全移民の間に比較を行ふと、其の異同の程度に差違が見出される。本書の統計的研究に從へば、前揭四區分中、其他の諸地方に屬する sedentes が移住民に最も近い樣相を示す。換言すれば、移住民型が現在日本の南部地方よりも北部方面に顯著である乃至は普遍的であるとの結論が是から引出される。其の當否は暫く置くとして、實證的研究から得られた一つの證明として、現在の日本移住計畫上に何等かの指針ともなれば、誠に面白いと思ふ。

第六章は年齡を基準とする比較が扱はれる。既に一言した如く、第二世と其の父母たる移住民間には可成りの年

齢の阻隔が存する。その爲めに本調査の結果が不充分に陷る事を恐れて、本章に於ては、出來得る限り年齢を基準として三グループ間の比較を行ひ、その結果を既得の全般的結果と比べて見る。然もその成績は極めて良好であり、男性に就いて兩者間に七八%は完全なる一致、一四%は部分的一致が具現され、僅に八%のみ部分的不一致を示す。從て年齢の要因は全體の結果に對して大なる影響を及さぬ事が擧げられる。

敍上の分析を終つた後、著者は更に移住民の經濟的地位が及ぼす影響の考察へ進む(第七章)。先づ三グループに關し、概括的な職業別を掲げるならば次の如くである。

| | 農業 | 商工勞働者 |
|---|---|---|
| Sedentes | 25% | 75% |
| 移住民 | 65.29% | 34.71% |
| 第二世 | 75.93% | 24.06% |

勿論、前掲の對立的な職業別に基いて體格上の特徴を認め得る。然し此の區別を基準とする結果を、全般的な結果と比較すれば、兩者間の差違は、比較的些少である(一六七頁參照)。即ち職業の要因も全體の結果に對し決定的影響を及ぼすとは考へられない。

唯斯かる調査の附隨的結果として、勞働者より商業或は自由職業へと、布哇移民の經濟生活水準向上が注目せられる。是れは既述の體位向上と相俟つて所謂人種問題に一つの渦紋を投げかけるかの如くである。依然として日本人が布哇全人口中の絶對多數を占める現狀よりして、是れが軈て一つの大きな社會問題を醸成せぬとは何人も斷言出來まい。本書の第二次的目標も、實に布哇人種問題の解明に在る(副題に明記)。

以上で本書の數量的研究を終り、第八章は觀察による質的特色の差違に就いて觸れる。皮膚色とか毛髮の形狀とか三十五種に亙る比較中、移住民は sedentes より十八種差違を示し、第二世は親たる移住民の傾向をその儘繼承する。

斯くして結論として「移住民は sedentes より質的にも量的にも非常に變化を示すが、是に對し第二世は量的に更に變化を擴大するのみで、質的には何等父母と異らない。從つて量的なるものの方が環境に影響され易いと解される。然して移住民の場合に、量的質的兩方面に於て變化が見られるのは環境の影響による以上に、移住現象そのものに伴ふ諸種の要因の結果と考へる事が出來よう。」(一九八頁)

以上本書を通讀する事によつて、吾人は環境の變化が人間の身體發育上に殊に共の量的方面に、如何に甚大なる影響を及ぼし得るかを理解する事が出來る。尚又環境側に於て、より一層明確なる分析が可能であるならば最も有力なる作用要因を抽出し得るであらうし、その事が又望ましい。然し本研究を以てしても、結果は既に有意義である。蓋し日本の布哇移民に就いて、斯く實證せられた事は他の同樣の場合にも亦容易に有り得る事と考へられる。或は又人口の移住によらなくとも、環境自體の變化によつて同樣の結果が豫想せられる。

本書に關する限り、內容は餘りにも生物學的色彩が濃厚である。然し、既に一言した如く、布哇における人種問題考察への有効なる資料たり得る事は明白である。更に此の問題を離れても、其の研究方法に就いて、或は又得られた結果の或者に就いて、我々は種々の學ぶべき點を見出すであらう。殊に我國の如く、滿州移民計畫遂行中の現在、斯かる研究方法による調査が無益であるとは斷言し得ないであらう。斯かる分野に於ける著作が從來極めて稀

H. L. Shapiro, Migration and Environment. 1939.

少なる折柄、本書の寄與は更に大なるものがあらう。

（Oxford University Press. 三越賣價廿九圓二十五錢）



# 前號（第三十三卷第六號）目次


●ブロック經濟の本質およびその發展　加田哲二

●統計的平均値の理論的構造　寺尾琢磨

●カッセルの價格構成機構論　千種義人

●古版經濟書解題　高橋誠一郎
一千七百八十五年版サー・ジョン・シンクレア著『英帝國公收史』

●『東京火災保險株式會社五十年誌』　高橋誠一郎

●市村今朝藏著『再組織された英國の經濟』　高橋誠一郎

●三田學會雜誌第三十三卷前半總目次



●一冊定價金五拾錢
●半ケ年分金貳圓九拾錢
●一ケ年分金五圓四拾錢
郵稅金壹錢五厘
郵稅共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和十四年六月廿五日印刷納本
昭和十四年七月一日發行
毎月一回一日發行

三田學會雜誌
第三十三卷第七號

編輯兼發行者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾內　江田熊保
印刷者　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所

發賣元　東京市芝區三田二丁目一番地　丸善株式會社三田出張所
電話三田(45)〈一一九二六番 一一九二七番〉
振替口座東京一一八五二番

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す。

發行所　東京芝三田慶應義塾內　理財學會
振替口座　慶應義塾　芝區三田二ノ二　東京一八二〇四番


禁轉載